

保育教材のアイディア



林 健 造

一、アイディアを生みだす眼

故里の友人が上京している。「いいなあ、東京にいるんだから、刺激がいっぱいあるからな」そこで私はいう。「東京？ うるさいばかりだね。ときに刺激とは何だい。『心ここにあらざれば、見れども見えず』じゃあないか」

たしかに何かを求める心があるからこそ、刺激はいたるところに転がっているといえるのだろう。保育教材のアイディアだって、きっと子どものまわりにいっぱいころがっているにちがいない。アイディアは、頭や心でみつけただけのものだが、あえてみつける眼といつてみた。

みつける眼の基盤になる心の条件には、こんなことが必要だ。

○びっくりする心
○日々新しくなるとする心

○いろいろ角度をかえてさぐってみる心
○奇想天外なことを考えだす心

など。

二、日常の子どもの遊びから

1 陣とり

陣とりあそびというのがある。子どもが遊んでいるのを見るといい。アイディアは、頭や心でみつけただけのものだが、異なっている。これはいただける。画用紙なり、大きな模造紙なりをグランドとして、二人とか四人とかで四隅から出発する。シャンケンをして勝ったら親指を中心に他の四指で扇形に

じんとり

$\text{♩} = 120$

じんとろじんとろじゃんけんほん
ばーでかつたらあかいいろ
ぐーでかつたらあおいいろ
ちょきでかつたらきいろだよ
じんとろじんとろじゃんけんほん

とっていく。もちろん、画用紙の場合、クレヨンで線をひいて色をぬっていく。回が進めば、ちょうど、日本の伝統的な紋様の青海波（鱗もよう）のような美しいもようができるという仕組である。そこで、こんなうたや曲（上記）を作つてみたがどうだろう。

陣とり

じんとろ じんとろ じゃんけんほん

ぱあで かつたら あかいいろ

ぐうで かつたら あおいいろ

ちょきでかつたら きいろだよ

じんとろ じんとろ じゃんけんほん

絵画製作に利用される子どもの遊びには、この外いろいろの形があつて「石けり」や、「ぱあ」をバイナップル・ぐうをグリコ・ちょきをチョコレートなどと称して、その字数だけ歩数を進める遊びがある。子どもの遊びをよく観察してみると、随分造形的に話す要素をもつたものがいろいろ発見されるものである。

2 血がみえる

秋晴れのひる。子どもたちが数人庭で、「血がみえるよ。血がみえるよ。」と大きさわぎである。私もとびだしてみると、なんだ、太陽にすかした手の指の間が赤くみえることなのである。しかし彼らにとっては、たいへん不思議なことであり、とてもびっくりしたことなのである。

太陽にすかせばみえることがこんなに大きな驚きならばということから、早速、教室でザラ紙を二枚渡し、一枚で何でもすきな形をきつて、もう一枚のりで貼らせ、これをおひさまにすかして見る遊びをしてみた。きあたいへん、「見える？」ときくと、太陽にすかすまでが不安、すかしてみてびっくりしたように「あっ、先生見えた」と叫ぶ。「ほーらね、何もないでしきう。でもね先生、こうしてみて『ごらん』私から出つたくせに、私を無理やりひっぱつていって、見せる始末である。

三、かみくずはんこ

プリント遊びとか、かたおしとか、もつとしゃれた人だと“スタンピング”などということばを使うだろうが、わかりやすくいえば例のはんこおしである。

幼稚園などで、このはんおし遊びをするために、

「あしたね、おいももつてらっしゃい。それから、はすもいいわね。えーと、ほかにびんのふただのもつてらっしゃい」などとその準備がまたいへんやつかいである。お皿には、ガーゼか脱脂綿を入れて、絵の具をひたしておく。いつもはすをもつてきても、これを庖丁で一人一人切つてやらなければならない。ああ忙しい。こういうことのために、紙くずはんこというアイディアはたいへん喜ばれるであろう。

画用紙の断ちくずをくるくる巻いて、あるいはまた、新聞紙を

一握りまるめただけでよい。これにすみや絵の具をつけて、ぺたんこ、ぺたんこ押していくというやり方である。そんな馬鹿な、という人があつたらやつてごろうじろ。なかなか美しい、興味深いプリント作品ができる」とうけあいである。

四、リレー画遊び

オリンピックのせいでもないが、リレーしてかく絵というのはどうだらう。いくつかやり方がある。前の人のかいた絵に画用紙をつないで、その続きをかくというのもある。紙芝居の形で次々物語りをかくのもある。これは黒板にかく、連想画リレーともいうべきものを紹介しよう。

まず先生は、単純なまるや三角やS字形などを黒板にかいておく。この形が何にみえるかを二、三度くりかえして連想あそびのトレーニングをする。

さて、組をいくつかのグループに分ける。紅白二組なら、黒板に用意する教師の絵も二つにする。ゲームのはじめに、ルールを話す。

a チョークはバトンだよ。

b ひとりで一筆ずつかくこと。

c まわりの人がああかけこうかけといわないこと。

d 次々に一筆ずつかいて最後の人がかいたとき、どんな絵になつたかを比べる。

といったことで始める。運動会と間違つて、チョークハントンをうけとると、駆けだす子がいる。一筆というのに、ずいぶん描いたやう子もいる。『ぜったいアトムにしてよ』などと、友だちにいう強制タイプもある。その折、その時で適当に注意をしてやればよい。

「先生もう一回、またしてよ」

と子どもたちにせがまれることうけあい。

こんな絵画製作教材のアイディアは、あげればきりがない。
「んどはこれよりも、もう少し大きなことをあげてみよう。

五、ウイーンの幼稚園

この春、ヨーロッパを巡った時、ウイーンの幼稚園を二つほど見る機会に恵まれた。静かな美しい都、ウイーンの幼稚園の白くすきとおるような皮膚のかわいい子どもたちを相手に、この先生も熱心である。日本の子どもの絵を見せたら、先生も子どもたちもいっせいに「シェーン！」といつて驚く。

案内してくれた女の指導主事さんから、

「日本の美術教育はすばらしいですね。それに、音楽教育もまたすばらしい」とおほめにあざかって、本当にからと半信半疑ながら、顔がほてつて仕方がなかつた。だって、ここは有名な音楽の国、しかも、近代美術教育の生みの親フランク・チャゼック先生の国だからである。

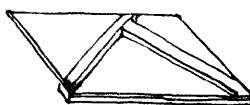
さてと、ここ一つの幼稚園は、ビルの四階にあるという変つたもの。エレベーターで昇る途中の壁は、のびのびとしたすばらしい幼児画でうめられている。どうしてかいたのか、なぜかいたのかなどという私の愚問に対し、途中でエレベーターを止めてはかかしたといつて。なるほど、ここエレベーターは前の扉も、後の扉も開くのだ。

「エレベーターの、そして壁からくる子どもの不安感をとりのそくためです」目的については明快な答えをきいて、なるほどと、その適切なアイディアにすっかり感心させられた。

五才児や六才児にも版画をさせている。丸刀でリノリュウムや、ベニヤ板をほつっている。作品もなかなか見事だ。

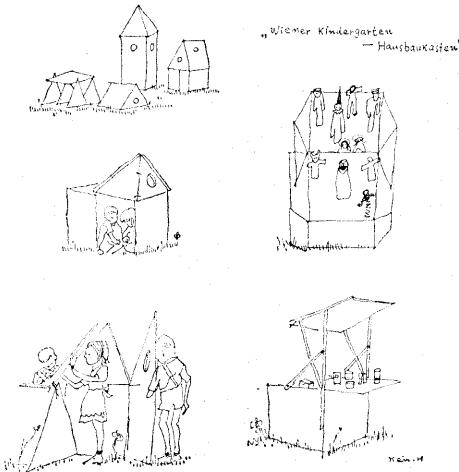
五、六才で彫れますかというと、こんな道具を使っているのですと、いわゆる彫刻台を見せてくれた。なかなか考えてあって、簡単な仕組でうまくできている。(図①)

図 ①



次は、遊具で、積木類もよく工夫されていたのであったが、中でも一番感心したのは、建築ユニットとでもいうのか、ハードボードのような丈夫な板で、三角形とか、正方形とか、長方形のユニットができるいて、これらには、中央に丸窓があけてある。このユニットの組合せによって図②のように、お家にも、お店や

図 ②



さんにも、人形などを飾るパネルにもなるという便利なものである。

第一、大きさが、そばにいる子どもと比較してみれば解るよう大きいのがいい。

組立ても子どもでできるために、子どもは全身を使って作業できることと、ユニットをいろいろ組合せて作る過程で、創造力が伸ばされるところが気に入った。

組立てられたものの、完成された形の中で容易に遊べるのだから、そのまま、子どもたちの遊びや暮らしに役立つわけであ

る。一枚一枚の板には、ひもでむすび接合できるように穴があいているのであろう。日本にも、いろいろな遊具があるが、このような入れる積木とでもいえそうな大きな大きい遊具を考える必要があるのでなかろうか。

六、イスラエルのドラムかん

この夏北海道で行なわれた日私幼大会の時に、札幌の先生がスライドで見させてくれたイスラエルの幼稚園の遊具もおもしろい。その先生の解説によると、

「日本的人は、ものを大事にしない。イスラエルの幼稚園では、物資が豊かでないので、子どもの遊具なども、なかなかそろえられないのでしょう。そこでP.T.A.の親たちが、自分たちの手で遊具を作つてやろうということになり、考えだしたのがドラムかんをタテに二つに切断して、舟のような乗り物を作つたり、すべり台みたいな昇つたり、おりたりする遊具を作つて、幼稚園の庭においてある。ドラムかんそのままで、あまりにも殺風景だというので、ラッカーや美しい模様をつけている」スライドでみると、この模様の色やパターンが実に美しい。

ここにもまた、やむにやまれない愛情を基盤としたアイディアを生みだす眼がみられるではないか。